

# リビング&デザイン 産官学連携でユニーク商品開発

【開催日】10月24～26日  
【主催】リビング&デザイン2012  
実行委員会  
【場所】グランキューブ大阪(大阪国際会議場)  
【出展社】90社

4回目となる同展。今回はメインの見本市会場を市内中心部に移し、

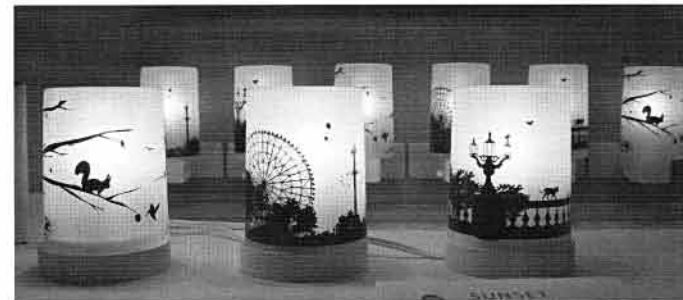
その周辺でイベントや新作発表を繰り返す70社のインテリアショップ

ブ、ショールームをシテイ会場とした。テーマは「住まいと暮らしのリアルな暮らし」。住宅や建材、家具などのインテリア製品、リノベーション関連、デザインまで幅広く視野に入れ、これからの住空間を提案した。

風に再現したものが出展された。伝統的織物「結城紬」のショールは1万8900円、ベビー用おくるみセットは4万7250円と高価だが、担当者は母の日、出産祝いの贈り物として薦めていた。

日本各地から生み出される心の込められた商品を紹介する「ニッポン・モノ・イチ」のブースには、手づくり・高品質の個人的商材が並んだ。瓶の底に溜まった水に落ちる水滴の反響音を楽しむ水琴窟。これを現代

ユニークなアイデアで来場者の関心を集めていたのが、大阪芸術大学のブース。産官学連携の商品開発で、金剛すだれを用いた「iPadカバー」や、陶磁器メーカーとコラボで制作したアロマランプ、パティエーギフトとして提案された「ト



▲アロマランプ「サンセット」シリーズ。産官学連携プロジェクトの第1弾商品。夕焼けの都会の風景をアロマランプで表現している。1,800～2,800円(大阪芸術大学・ファゼン)



▲地上設置型水琴窟。一般的には縁先の地下に作られたもので、瓶の底に小さな穴を開けて伏せて埋め、手水の余水が瓶の天井からしずくとなって落ちるように工夫した発音装置。地上に簡単に設置できるように開発した。(左)2万5000円、(右)5万円(羅敷窯)



▲「トイレの形のチョコレートフォンデュ」。デザインした学生は「友達同士で盛り上がるパーティーギフトとして制作した」という(大阪芸術大学・サンアート)



▲紙棒3万本でできたタマゴ型立体。学生20人が2カ月かけて作り上げた(大阪工業大学)



▲ひのき製ティッシュボックス。2方向から紙が取り出せるアイデア商品(トサノキ)

イレ形のチョコレートフォンデュが人気を呼んだ。対談イベントでプロダクトデザイナーの喜多俊之氏は「日本の住まいは団地から文化住宅、マンションへと展開したが、家が狭いので漆器な

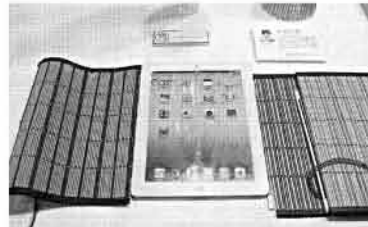
ど調度品や着物が生活に合わなくなっている。伝統工芸の消滅が始まった。リノベーションによって楽しい住まいをクリエイトしなければいけない」と訴えた。



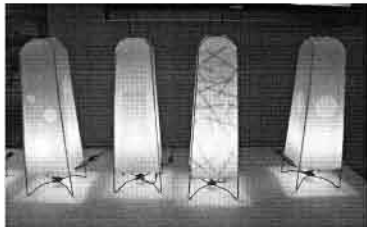
▲コーデロイの生産地、静岡県静岡市で、生地から縫製までメイド・イン・ジャパンで製造したオリジナルバッグ。左のフライトバッグは、肩からバッグを下ろすことなく、荷物を簡単に出し入れできる(丸音織物)



▲タイプスにはデザイナーの喜多俊之氏とインテリアメーカーがコラボで開発した家具、小物類が並ぶ(タイ国政府貿易センター大阪)



▲iPadカバー。金剛すだれの伝統素材と技術を使い、学生のデザイン力をプラスして開発した産官学連携商品(大阪芸術大学・杉田製備)



▲喜多俊之氏デザインの伝統と新技術を合わせたLEDと和紙の照明器具(スティレライフ)

## 新製品ニュース/ヨシダヤ 背景デザインが月毎に変わる挨拶状



吉田 健一 社長

和紙の印刷をメインに手掛ける株式会社ヨシダヤ(岐阜市、吉田健一社長)は、背景のデザインが月毎に変わって季節感を表現した新しい挨拶状「歳時記」を発売している。8月の「入道雲」から始まり、9月「コスモス」、



月毎にデザインが変わる挨拶状、10月の「紅葉」

10月「すすき」、11月「紅葉」、12月「オリーブ」これまでに5種類を発売。来年1月以降も各月の新デザイン商品を発売し、年間12種類の挨拶状を完成させる。

吉田社長は「白地に文字印刷の挨拶状だけでなく、他では手に入らないデザイン性、芸術性のある挨拶状の開発を目指しました。今夏からの「歳時記」の発売は手応えがよく、消費者には確かな需要があると感じます」と述べ、付加価値商品の開発に意欲を示した。

吉田社長(33歳)は4年前に社長に就任。オリジナル性や付加価値性を高める商品開発に積極的に取り組んでいる。「歳時記」以外にも、喪中ハガキの横書きカラー版やバラの香りの付いた挨拶状を開発、若い顧客層から好反響を得ているという。「パソコンの普及で誰でも簡単に挨拶状が作れるようになりました。我々は芸術性のあるものやこんなにはすばらしいものは見たことがないというものを作らなければ、お客様からお金を出して頂けません。故人の好きな風景やグッズを挨拶状に印刷するなど、今後もオリジナルティのある商品開発を続けたい」